2025年度韓国大会の報告

IGKC　東海地区クラブ　酒井武信
IGKC　中国地区クラブ　寺本昭彦

大会名　2025 年 第 38 回国際オープン韓国社会人剣道大会
日　程　2025 年 6 月 7 日～8 日（大会）、9 日（観光、合同稽古会）
訪問先　オリンピックハンドボール競技場（ソウル、ソンパ区/1988 年ソウルオリンピック開催のために開発された特別区）
参加者　渡並会長、曽根理事長、以下各地区の参加人数（東北 5、関東 4、東海 10、近畿4，中国5）総勢 30 人

1，大会の全体概要

1）概　要

韓国各地の剣道クラブに加えて、日本、台湾、中国、香港、アルゼンチンという 5 つの国と地域から、約 800 人が参加しました。IGKC からは総勢 30 人でしたので比較的大きな選手団と言えます。

会場アリーナには 10 試合場が配置され、各試合場の掲示は前後 2 つのモニターが使用され、時間も表示されていました。

プログラム含めてハングル文字であったので、翻訳アプリが活用できないと不便を感じました。また日程に関しては、プログラムには大会期間の両日とも合同稽古会が記載されていましたが、試合数が多いので稽古会の時間がなかったことが、交剣知愛の観点から少し残念に思われます。

2）開会式

各来賓のあいさつに続き、セレモニーとして剣道人でありながらテノール歌手の歌唱があり、続いて韓国ナショナルチーム 6 人による基本稽古のデモンストレーションがあり見ごたえがありました。

3）懇親会

7 日夜に宿舎のオリンピックパークホテルで懇親会があり、伝統的な楽器演奏および歌唱、伝統舞踊が披露され、文化交流にふさわしいものと感じられました。

2，試合について

1）成　績

団体戦の 50 代チームが優勝しました。この大会のメインのカテゴリーの一つで、5 人戦で岩崎先生（中国）、藤原先生（東海）、川崎先生（中国）、菊池先生（東海）、中川先生（関東）の IGKC 混成チームとして出場しました。準々決勝と準決勝は接戦の末どちらも代表者戦を菊池先生が勝利して、決勝まで進みました。また団体戦 60 歳以上の部は、近畿チームの高野先生、蛭子先生、田頭先生が優勝されました。3 人戦での一本の重みを活かして勝ち上がりました。 個人戦では 70 歳以上の部で優勝田頭先生（近畿）、3 位高野先生先生（近畿）でした。その他、ベスト 4 をかけた女子団体東海チームは、有効打をなかなか取ってもらえず残念ながら敗退しました。入賞された IGKC の選手は、有効打突の基準や剣風

が異なる中でも、動ずることなく明解な一打を示された心の強さに感銘を受けました。

2）審判員、試合の傾向

審判員の方は、所作・位置取り等よく講習されているように思われました。ただし、有効打突の基準が甘く竹刀の先で当たれば一本との判断でした。物打ちで打つということでは無いようです。しかし試合が活性化する効果は大きいように思います。また、鍔競り合いからの別れ方や時間空費への判断にはばらつきがありました。

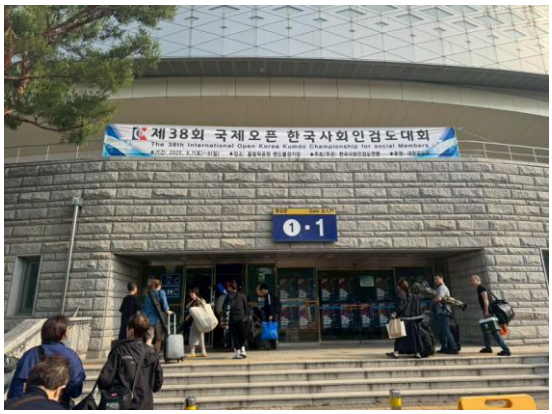
一方試合者としての課題は、コロナルールで別れるものだということに慣れてしまい、鍔競り合いからのさがり技へ意識の低下があるようです。さがり技を打たれること、打つことへ意識を高めることが、国内の試合・稽古でも必要になってきているようです。

相手の試合ぶりも含めて、韓国では剣道をスポーツととらえている傾向があるように感じられました。いづれにしても、その試合環境にいち早く適応していくことが重要であることをあらためて痛感しました。

3，　その他/韓国の剣道教室の状況

韓国では、剣道で生計を立てている道場経営者の方が剣道指導に当たっているとのことでした。昼間は大人または小学生、夕方は中学生、夜は大人の教室と時間割を作り、月謝を取って指導し、送迎バスも用意しているとのことでした。したがって、バスは規定に従って、同じ黄色で同じ剣道ロゴ・マークの入ったものでした。ちょうど日本のスイミングスクールのシステムのような感じでしょうか。

ホテルからの 6 人乗りバスや会場駐車場にあるマイクロバスが多数あり、道場経営者が多く参加しており、この大会が道場の PR の場にもなっているのではないかと思われました。コロナで道場は減ったものの依然として剣道希望者は多いとのことです。



大会会場/オリンピックハンドボール競技場

大会会場周辺の街並み/ロッテタワー（中央）

開会式（6/8）

大会会場・試合風景

50 代の部　優勝した IGKC チーム

60 歳以上の部で優勝した近畿チーム

個人 70 歳以上の部　優勝　田頭先生（近畿）　　3位高野先生（近畿）/右　2位廖台湾会長/左

健闘した東海女子チーム　　渡並会長、金韓国会長、曽根理事長、陳前台湾会長

懇親会の演奏と演舞

剣道教室の送迎バス

6 月 9 日　景福宮観光(東海)

4、観光、合同稽古会

大会翌日の 9 日には、日本・香港・アルゼンチンからの約 30 名が、韓国社会人剣道連盟がご用意くださった大型観光バスにて、金碩（キム・ソク）先生と李炯佑（イ・ヒョンウ）先生のご同行のもと、観光を楽しみました。

最初に訪れたのは、韓国ドラマ『冬のソナタ』のロケ地として有名な南怡島（ナミソム）で、美しい自然の中を散策しました。昼食には、南怡島近くのレストランにて、名物の春川（チュンチョン）ダッカルビを堪能しました。その後、ソウルに戻り、広蔵市場にて買い物や軽食を楽しむなど、地元の雰囲気を味わいました。

夜 20 時頃からは、城東高等学校の武道場にて、参加者と現地の先生方・生徒の皆さんとともに約 1 時間の合同稽古を行いました。稽古後には、近くの焼肉店で最後の夕食を囲み、美味しい焼肉とお酒を楽しんだ後、ホテルへと戻りました。終日を通して、大変充実した一日となりました。

【南怡島観光】

【昼食】

【広蔵市場観光】

【合同稽古】

■　終わりに

大会ならびに観光・合同稽古会等にご尽力いただきました韓国社会人剣道連盟の皆様、特に受け入れの対応をいただいた金碩（キム・ソク）先生に心よりお礼申し上げます。

また、申し込みの取りまとめの労を取っていただきました IGKC 本部事務局の小林房雄先生に この場を借りて感謝申し上げます。

以上